

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年10月17日 (2013.10.17)

【公表番号】特表2013-504318(P2013-504318A)

【公表日】平成25年2月7日 (2013.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-007

【出願番号】特願2012-528465(P2012-528465)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/435 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 25/06 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/435

C 1 2 P 21/02 C

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 25/06

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月28日 (2013.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 3 またはそれらの C 末端がアミド化された形態に示される アミノ酸配列を含む単離されたペプチド。

【請求項 2】

請求項 1 の単離されたペプチドおよび薬学上許容可能なキャリア又は希釈剤を含む医薬組成物。

【請求項 3】

疼痛を治療する方法であって、有効な鎮痛量である請求項 1 の単離されたペプチドのよ
うな治療を必要とする対象に投与することを含む、方法。

【請求項 4】

前記疼痛が、神経原性疼痛及び / 又は神経因性疼痛である、請求項 3 の方法。

【請求項 5】

前記疼痛が、癌の疼痛、手術後の疼痛、口腔又は歯の疼痛、参照される三叉神経痛に由来する疼痛、ヘルペス後神経痛に由来する疼痛、又は反射性交感神経性ジストロフィによる疼痛である、請求項 3 の方法。

【請求項 6】

前記疼痛が、炎症状態に関連する、請求項 3 の方法。

【請求項 7】

前記疼痛が、急性疼痛、偏頭痛、頭痛、偏頭痛の頭痛、外傷性神経傷害、神経圧迫、神経絞扼、ヘルペス後神経痛、三叉神経痛、糖尿病性神経障害、慢性腰痛、幻肢痛、慢性骨盤痛、神経腫疼痛、複合性局所疼痛症候群、慢性関節痛、癌、化学療法、H I V 及び H I V の治療が誘導する神経障害、過敏性腸症候群及び関連する疾患及びクローン病に関連する疼痛から成る群から選択される 1 以上の状態に関連する、請求項 3 の方法。

【請求項 8】

それを必要とする対象に治療上有効な量の請求項 2 の医薬組成物を投与することを含む、対象において疼痛を治療する方法。

【請求項 9】

前記ペプチドがクモ毒から単離される請求項 1 の単離されたペプチド。

【請求項 10】

前記ペプチドが単離された合成ペプチドである請求項 1 の単離されたペプチド。

【請求項 11】

前記クモがタランチュラの種である請求項 9 の単離されたペプチド。

【請求項 12】

クモ毒の粗精製のペプチドを回収して回収したペプチドを作製することと、前記回収したペプチドを可溶化して可溶化したペプチドを作製することと、前記可溶化したペプチドを還元して還元したペプチドを作製することと、還元された及び／又は酸化されたシステイン又はグルタチオンを含む酸化還元混合物にて前記還元ペプチドを折り畳んで折り畳んだペプチドを作製することと、前記折り畳んだペプチドを精製して再折り畳みしたペプチドを作製することを含む、請求項 1 のペプチドを再折り畳みする方法。